

ヒロセ通商株式会社
第 23 期定時株主総会 質疑応答要約

Q1.

(御質問) 学校建設プロジェクトの中で、サステナビリティ経営及び人権尊重の一環として、北朝鮮による日本人拉致問題の啓発活動を検討してもらえないか。

A1.

当社の学校建設プロジェクトを評価いただきまして、誠にありがとうございます。

ご指摘いただきました北朝鮮による日本人拉致問題につきましては、当社としても、心を痛める問題であると認識しております。

他方で、海外に建設された学校における教育内容に対し、この問題を取り上げるように、当社が要請することにつきましては、当社として、現時点でその是非を判断することが難しく、今後の課題として検討したいと思います。

(※なお、Q1 は本株主総会に先立ち、株主様から事前に頂戴していた質問です。)

Q2.

(御質問) この数年、売上が横ばいになっていて、成長力がかなり停滞していると感じる。CFD や海外子会社などの新規事業に注力していくとのことだが、なかなか芽が出ていない。役員が同じメンバーであるため、慣れ合いの状態になっているのではないか。

今後、競争力をつけていくためにも、新しい風を入れるべきなのではないか。役員の構成について、考えを教えてほしい。

また、成長について誰が責任者となって取り組んでいるのかも教えてほしい。

A2.

当社は元々、同じ商品先物会社に勤務していた社員が立ち上げた会社であるため、必然的に同じ会社の出身者が多くなっておりますが、役員の中には別会社出身の者もあり、慣れ合いの状態になっているわけではございません。

新しい風を入れるべきだのご意見は、ご指摘の通りと考えますので、若手社員が今後、当社の中心メンバーとなっていけるように、社員教育にしっかりと努めてまいりたいと思います。

また、成長については、まずは社長が責任者として取り組んでおりますが、社長だけではなく、その他の役員がしっかりと社長をサポートした上で、会社を成長させていけるようにしていきたいと考えております。

Q3.

(御質問) 配当などの株主還元が、同業他社に比べて劣後している。

成長するために内部留保を確保するという点は理解できるが、ここ数年、売上については横ばいの状態。預り資産等は増えているが、外部要因によるものだと考えられる中で、なかなか次の一手がつかめないようなら、利益を配当として、株主に還元する必要があるのではないか。配当性向や、株主資本配当率も、同業他社と比べると低い。株主優待はあるが、それについてはおまけだと思っている。

配当について、どのようにお考えか教えてほしい。

A3.

貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

当社は金融会社であるため、色々な資本の規制等がございます。

自己資本規制比率や、FX 会社の場合はストレステスト等もあり、十分な内部留保を確保する必要があることと、今後も成長への投資も必要と考えております。

株主様に対しては、今後も成長を継続し、それによって還元していきたいと考えております。